

子どもたちが育てているアサガオとホウセンカから種が採れました。園庭のオシロイバナにもたくさんの種が実っています。守り、育てて下さった神さまに感謝しながら、嬉しい秋の実りを感じていきたいと思います。

「竹馬をしたい！」	二学期の保育の視点②④より
-----------	---------------

年中組の子どもの中には、二学期になり竹馬で遊ぶことに興味を持つようになった子どもたちがいます。

10月のある日、Aちゃんは「こうやって持つんだよね」と言いながら、両手で一本ずつ竹馬を動かします。竹馬の上に立てなくても、歩けなくても大きい組のお兄さんお姉さんのように竹馬を持っていることが嬉しいのです。Aちゃんは竹馬を持ち上げたり下ろしたりしながら、庭を歩き回りました。その視線の向こうには年長組の子どもたちが竹馬に乗って芝生の周りを歩いている姿があります。

Aちゃんは「私も乗ってみようかな」と、竹馬の上に立とうとしました。片足は竹馬に乗せられるのですが、もう片方の足を掛けようとすると、バランスを崩してしまいます。Aちゃんは「もう一回してみよう」と再び竹馬に足を乗せようとしますが、なかなかうまく立てません。すると、Bちゃんがやってきました。BちゃんもAちゃんと同じように竹馬に立とうとしますが、足を乗せるとぐらついてしまいます。AちゃんとBちゃんは思うようにできなくても、笑いながら「もっとやろうよ」と、何度も竹馬に足を掛け、前へ進もうとしました。

次の日も、AちゃんとBちゃんは支度を終えると園庭へ行き、竹馬をします。何度も竹馬に足を掛けていたうちに、少しの間両足で立てるようになってきました。様子を見ていた私は「竹馬の上に立てるようになって嬉しいわね」と二人に声を掛けました。すると、Aちゃんは「だって〇〇ちゃん（年長組）が教えてくれたからね」と答えました。Bちゃんは「私は昨日からずっとしているの。今日はもっとするよ」と言いました。



それから毎日、AちゃんもBちゃんも竹馬に乗ることを楽しんでいきます。竹馬を持っていることがとにかく嬉しいのです。自分でしたいことを見つけ、そこにちょっと高めの目標をもって、心を動かす日々を大切に支えていきたいと願っています。

## 互いに思いを出し合える関係が育っています

### 二学期の保育の視点③より

このところのCちゃんは友だちと一緒にいるということに満足し、何でも友だちのDちゃんに合わせて過ごしていました。私はそれはそれで幸せだと思いましたが、Cちゃんが友だちに合わせることに共に、自分からも動き出せるようになることや、またDちゃんと一緒に過ごす中で、少しずつ自分の気持ちを相手に伝えられるようになることを願って関わっていました。

ある日、CちゃんとDちゃんはカブトムシになって家を作っていました。Dちゃんは部屋にある積み木を一つずつ、並べていきます。CちゃんはCちゃんて自分の思いで高く重ねていました。Dちゃんは「もっと大きくしようよ」と積み木を更にたくさん運びました。Cちゃんは「僕は高くするよ」と重ねていました。

それから、二人はご飯を作りました。Dちゃんはお皿にご飯を並べ、スープにしました。Cちゃんは「僕はケーキを作ろう」と言って、レモンのケーキを作りました。Cちゃんが出来上がったケーキを高く重ねた積み木の上に並べた時のことです。Dちゃんが、「駄目だよ」と言いました、私はCちゃんがどうするかなと思いつつ、二人の様子を見ていました。すると、Cちゃんは淡々ともう一枚お皿を持ってきて、再び同じ積み木の上に並べようとしていました。Dちゃんはさっきよりも大きな声で「駄目だよ、そうじゃないよ」と言いました。Cちゃんは「僕はこうしたい」と言いました。積み木の上でお互いの手がぶつかりそうになったので、私は二人の間に入り、話を聞きました。すると、Dちゃんは「ここはお皿を並べるところじゃない」と言いました。Cちゃんは「冷蔵庫にしたいの」と言いました。今まで友だちの思いに合わせることの多かったCちゃんが自分の意見を言いました。それから、冷蔵庫にするかどうか、しばらく話し合いました。結局、Dちゃんが「冷蔵庫でもいいよ」と言ったことで、遊びは再開され、その後、二人は作ったご馳走を冷蔵庫の中にたくさん並べました。

Cちゃんが友だちに自分の気持ちを出せるようになってきたことで、二人で一緒に考え、話し合うということが生まれてきました。お互いの意見がぶつかり合うこともあります。二人の思いがあることで、遊びがより楽しくなり、広がってきています。一人ひとりが自分の思いを表現したり、友だちに伝えられるようになっていく今を大切に支えています。

(藤野佳代)

